

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
癰瘍剤 外瘍剤 (陽証) 4		
しみょうゆうあんとう 四妙勇安湯	清熱解毒・活血止痛	金銀花・玄参各 90g・当帰 30g・甘草 15g 水煎し服用する。10 剤を連続して服用する。
験方新編	<p><主治> 脱疽 患部の暗紅、微熱、腫脹、激痛、潰瘍、滲出、悪臭に、発熱、舌質が紅、脈が数などを伴う。</p> <p><病機> 脱疽は、四肢末端、特に下肢に多く、血行が不暢で筋脈に瘀滞し、蘊結し熱毒に化して筋脈を潰爛した状態である。 血脈が瘀滞し筋脈が潰爛腐敗するために、局所が暗紅色になって熱をもち腫脹して激痛を伴い、甚だしいと潰瘍、腐爛、滲出、悪臭を呈し、熱毒のために全身的にも重篤な変化を引き起こす。蘊熱熾盛であるから、発熱、舌質が紅、脈が数である。</p> <p><方意> 清熱解毒を主に、活血散瘀を併用する。 甘寒入心の金銀花が主薬で清熱解毒に働き、清熱解毒、涼血の玄参と活血散瘀の当帰および解毒の生甘草が主薬を補佐する。全体で清熱解毒、活血通脈の効能を表わし、蘊熱を清し血行を舒暢し止痛する。</p> <p><参考> 本方 (四妙勇安湯) は脱疽に対して設けられた新方で、血栓性の動脈炎に用いる。用量が少ないと効果はない。 加減法 毛冬青・丹参を加えて清熱解毒、活血通絡の効力を強める方がよい。 激痛には、活血止痛の乳香・没薬を加える。 熱感が強いときは、清熱涼血の牡丹皮・生地黄を加える。 暗色が顕著であれば、活血祛瘀の桃仁・紅花を加える。 腫脹が強ければ、清熱祛湿の防己・黄柏を加える。 陰寒型、気血両虚型の脱疽には禁忌である。</p>	